

スポーツ健康学科教育方針とカリキュラム構造図

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

①人間を全人的に理解することができる。②学際的な視点から健康を支援することができる。③自主的により良く生きることができる。④健康の自己管理ができる。

スポーツ健康学士

スポーツ領域

健康領域

カリキュラムポリシー
スポーツパフォーマンスの向上、
ハイレベルなスポーツ指導者
実践的な保健体育教員
としての能力を身につける

カリキュラム・ポリシー
個々ならびにウエルネスを
向上させるための
スペシャリストや実践的な養護教諭
としての能力を身につける

取得可能資格
保健体育教員 など

取得可能資格
養護教諭
健康運動指導士など

4年

卒業研究演習
教育実習

卒業研究演習
教育実習

地域ウエルネスプロジェクト

地域ウエルネスプロジェクト

コーチング演習

看護臨床実習Ⅰ・Ⅱ

動作学演習

運動負荷試験 グローバルヘルス

スポーツ心理学演習

健康産業施設等現場実習

海洋スポーツ演習

運動処方論演習
トレーニング論演習

養護概説 看護学Ⅱ
学校救急看護学
健康相談活動の理論及び方法
医学一般Ⅱ

スポーツ史
球技論 スポーツバイオメカニクス

生理学・運動生理学演習
衛生学・公衆衛生学演習

免疫学 病理学 薬理概論
心の健康 健康心理学

実技系科目 (健康領域も共通)

体づくり運動 器械運動 水泳 陸上競技

空手・古武道概論 学校保健 精神保健

労働衛生学概論
労働法規Ⅰ・Ⅱ

2年後期終了時
にゼミ選択

バスケット バレー サッカー

スポーツ指導論 スポーツ栄養学 スポーツ障害と予防 運動処方論

社会福祉援助技術
障害者・高齢者福祉
児童福祉

2年前期終了時
に領域選択

ハンドボール 柔道 剣道 空手

安全管理論および方法 野外教育論 レジャー・レクリエーション論

2年次の目標
人間を多角的に理
解し、体育・スポー
ツ、健康の基礎知
識・技能を身につ
ける

舞踊 琉球舞踊 エアロビクス

ゴルフ レクリエーション実技

スキー・スノーボード

テニシング・マッサージ

教職科目
(保健体育)

体育原理 運動学 体育心理学 体育社会学 コーチ学 トレーニング論

看護学Ⅰ

1年次の目標
大学生として幅
広い教養と社会
性を身につける

体力・健康測定と評価 スポーツ指導論 スポーツマネジメント

教職科目
(養護)

1年 クラス制

インターンシップⅠ・Ⅱ

専門基礎科目 スポーツ健康学総論 スポーツ健康演習 人体機能学 発育発達学 救急処置 生涯スポーツ論 ウエルネス概論 医学一般 解剖学

生理学・運動生理学 衛生学・公衆衛生学 栄養学 社会福祉概論 スポーツ健康学特別講義 スポーツ健康学特別実技

全学教養科目 共通選択科目(外国語・国際理解・人文科学・社会科学・自然科学)

全学教養科目 共通コア科目(アカデミックスキル・ライフデザイン・思想と倫理・沖縄理解・健康スポーツ)

アドミッション・ポリシー
(入学者受入の方針)

スポーツ健康学科は、「スポーツ領域」と「健康領域」の二つの領域を柱としています。ウエルネス、スポーツ、健康をキーワードに自主的に学びたい学生を求めています。そして、社会人としての基礎力を身につけて、学際的な視点から「スポーツ」「健康」の両面を科学的に探究・究明し、社会に貢献できる健康支援人材として取り組む学生を歓迎します。したがって本学科への入学を希望する学生は、高等学校教育における教育科目を全般的に履修したうえでスポーツ健康学における必要な科目(体育や保健等)については高校教育の内容を修得しておくことが重要です。